

＜欲望／道徳＞図式の転換

——青少年における性行動と性規範，メディア利用の関係——

山口大学

高橋征仁

1 問題の所在

欲望と道徳の力動的関係に照準を合わせた二項対立図式は、常に正しくは生きられない生身の人間の行為やパーソナリティを捉える上で、非常に強い説得力をもってきた。現代の青少年における性行動の活発化という現象に関しても、情報メディアの発展に伴う、欲望の肥大化と道徳の衰退という解釈枠組みに従って理解されていることが少なくない。

ところが、「第6回青少年の性行動全国調査」のデータによると、この＜欲望／道徳＞図式は必ずしも適切ではない。というのも、第5回調査（1999年実施）から第6回調査（2005年実施）にかけての変化をみると、「性的関心」が著しく低下しているにもかかわらず、「性経験」が増加するという現象がみられるからである（表1）。また、性行動に関する規範意識も、この間、全体的に強化されている。したがって、このような性現象の変化を理解するためには、性行動の記号化や青少年層の分極化という観点から青少年の性現象を捉え直す必要がある。

表1 第5回調査と第6回調査のパーセンテージ変化

	射精/ 月経	性的 関心	自慰 経験	デート 経験	キス 経験	性交 経験
男子中学	-10	-15	-14	0	3	0
男子高校	-3	-12	-4	7	7	0
男子大学	0	-4	0	-3	0	-1
女子中学	2	-13	-1	3	7	1
女子高校	0	-20	-6	6	9	6
女子大学	0	-3	-2	6	5	4

2 方法

日本性教育協会による「青少年の性行動全国調査」（1974-2005）のデータをもとに、情報メディア所有と利用、性的関心、性的経験、性規範、問題行動、性知識をめぐる序列関係、因果関係について検討を行う。またそれらの関係をめぐる発達的变化と時代的变化について考察する。

3 結果

- a 情報メディアによる「欲望肥大化」モデルも、「道徳衰退」モデルも性経験増加を説明できない。
- b 情報メディアによる「出会い系利用」モデルも、あまり説明力が高いとはいえない。
- c 情報メディアや性教育による「性知識増加」モデルも、性経験増加を説明できない。
- d 情報メディアの利用による異性関係の質的量的変化は、著しく大きい。
- e 情報メディアの利用による親密性の加速効果も、著しく大きい。

4 考察

情報メディアの発展は、メディア利用に応じた青少年層の分極化をもたらすと共に、性行動の記号化を促進することによって、性行動の活発化をもたらしていると考えられる。

文献

- 日本性教育協会編，2007，『「若者の性」白書—第6回青少年の性行動全国調査報告』，小学館。
- 高橋征仁，2007，「性現象の多面性と多様性—第6回青少年の性行動全国調査にみられるもう一つの側面」，『現代性教育研究月報』，25巻10号，1～7頁。